

講演
3

HIV感染者の 口腔症状について

当科には年間のべ約2000名のHIV感染者の受診がありますが、きれいに歯科治療をなさっている方は少なくありません。どこで治療をしたのかと尋ねると、「近所の歯医者さんですよ。もちろん(HIV感染のことは)言いませんよ。だって、正直に言ったら診てもらえないじゃないですか」と言うのです。

つまり、患者の自己申告はあてにはならず、すでに皆さんは知らないうちにHIV感染者の歯科診療をしている可能性があるのです。一度受診拒否をされた患者さんは、次は申告さえもしくくなります。そういった大切な情報が抜け落ちたまま院内感染の可能性はもちろん、安全な歯科治療などできるのでしょうか。

また昨年10月からは、「歯科外来診療における院内感染防止対策につき、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関」に適合しない施設は初再診料の減点がなされるようになりました。つまり感染防止対策の知識や実践はもはや当たり前のことと捉えられるようになってきています。また、この施設基準に適合した施設を誰でもが容易に各地の厚生局のホームページで調べることができますので、「正当の理由のない診療拒否」は、絶対にできないということになります。

それでは、私たちはどうすればいいのでしょうか。

本講演では、

- 忘れてはならない「キンバリー事件」
 - HIV感染者に対する「心構え」はどうしたらよいか
 - (当科を受診した)HIV感染者によく見られる特徴
 - どういうところに注意すべきか: やっていいこと悪いこと
 - 「CD4数 < 200の場合は歯科治療をやってはいけない」という都市伝説の検証
 - AIDS患者の口の中はこうなっているか
(口腔カンジダ症/サイトメガロウイルス感染症/カポジ肉腫/悪性リンパ腫/壊死性潰瘍性歯周炎 など)
- さまざまな症例写真を供覧し、皆さんとともにAIDSにまで進行してしまった重症例に対する理解を深めて参りたいと思っております。

Yutaka Marucka

国立国際医療研究センター
歯科・口腔外科 歯科医師

まる おか ゆたか
丸岡 豊 先生



略歴

- 1994年 東京医科歯科大学大学院 修了(博士・歯学)
- 1996年 日本学術振興会特別研究員
- 1997年 米国Vanderbilt University Medical School, Cell Biology, Research Associate
- 2000年 東京医科歯科大学大学院 顎口腔外科学分野 講師
- 2007年 国立国際医療センター 歯科口腔外科 歯科口腔外科医長
- 2009年 国立国際医療研究センター病院 歯科・口腔外科 診療科長(名称・職名変更)
- 2016年 東京医科歯科大学 臨床教授(顎口腔外科学)(兼任)
- 2018年 医工連携推進室長(兼任)
- 2019年 厚生労働省医道審議会委員
国立国際医療研究センター病院 副病院長(兼任) 現在に至る

北関東甲信越ブロック HIV感染者の歯科医療情報交換会(ご案内)

エイズ患者・HIV感染者の 歯科医療体制整備に向けた 調査研究

今年も北関東甲信越ブロックにおけるHIV感染者に対する歯科医療体制整備のための情報交換会及び講演会を開催いたします。事前アンケートに協力いただいた各県の行政担当者、歯科医師会担当者、拠点病院歯科担当者の皆様に、心より御礼申し上げます。今年各県での取り組みをみると、昨年比べてワンステップ進んでいる県が多く、情報交換をしていただく意義がありそうに感じます。また、講演としては国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター(ACC)において、長年実施している研修事業の中の歯科研修の一部を出張形式でお願いすることとしました。もちろん正式な研修事業を受けていただくことも可能ですが、日数やタイミングの問題などで難しい方もいらっしゃると思いますので、この機会に是非受講していただきたいと思っております。新潟県も昨年11月から「新潟県HIV感染者等歯科医療ネットワーク事業」が開始され、多くの協力歯科医療機関の登録をいただいております。今後の歯科医療にあたり参考になるお話しがうかがえると思われ、情報交換の場としてご活用いただければ幸いです。

2019年**10月6日**
9時00分～15時00分

目的

各県の取り組みの状況を把握するとともに意見交換、聴講により、他県の良いところおよびHIV感染症に関する最新の情報を共有する。

対象

北関東甲信越地区(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、山梨県、長野県、新潟県の7県)の県歯科医師会・行政担当者・大学病院歯科(中核または拠点病院)

場所

新潟県歯科医師会館
〒950-0982 新潟市中央区堀之内南3-8-13
TEL:025-283-3030 / FAX:025-283-6692

当日プログラム

9時00分	開場
9時30分	講演1「慢性疾患、合併症としてのHIV感染症」 <small>渡辺恒二先生:国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター(ACC)内科医師</small>
10時30分	講演2「院内感染対策と口腔ケア」 <small>近藤順子先生:国立国際医療研究センター 歯科・口腔外科 歯科衛生士</small>
11時30分	「HIV陽性者のための歯科の診療案内」 発刊について <small>厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策研究事業 「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」 「歯科の医療体制整備に関する研究」分担代表研究者 宇佐美雄司先生</small>
12時15分	ランチョンセミナー <small>新潟県のネットワーク事業紹介 高木 午後の情報交換会 事前打合せ(昼食を準備します)</small>
13時30分	講演3「HIV感染者の口腔症状について」 <small>丸岡 豊先生:国立国際医療研究センター 歯科口腔外科 歯科医師</small>
14時30分	情報交換会、意見交換会(各県の状況報告など)
15時00分	終了予定

講演

1

慢性疾患、合併症としての HIV 感染症

1996年に強力な多剤併用抗HIV療法 (HAART: Highly Active Antiretroviral Therapy) が可能となり、HIV感染症は不治の病から長期生存が期待できる病となりました。それから20年余が経過した現在、HIV感染者の余命は非感染者と同等レベルを期待することができるようになっています。また、HAART療法が導入された当初は、内服薬の副作用による強い嘔気や下痢症、激しい貧血など、日常生活を脅かすような症状と闘いながらの生活であったものの、現在では1日1回1錠の内服薬による治療 (STR: Single Tablet Regimen) が主流となり、副作用の頻度も非常に少なくなっています。我々治療者の目標も、長期生存を目指すための治療ではなく、HIV感染患者さんに質の高い生活を楽んでもらうための治療に変化しています。

一方、長期生存が可能となったことから、高血圧や糖尿病、腎疾患や脳卒中など、高齢化に伴う様々な合併症を抱える感染者が増加しています。すなわち、これまではHIV診療を専門に診る医師のみがHIV感染者を診療することが多かったものが、合併症治療のためにHIV診療を専門にしない医師や歯科医師がHIV感染者の診療に関わる機会が急激に増加しているのです。講演では、このようなHIV治療の現状をご紹介させて頂いた上で、免疫状態の安定したHIV感染患者さんを診療する上で注意する点、針刺し事故への対策方法などを紹介させて頂きたいと思います。

Koji Watanabe

国立国際医療研究センター
エイズ治療・研究開発センター 医師

わたなべ こうじ
渡辺 恒二 先生



略歴

平成16年4月 琉球大学医学部附属病院 臨床研修医
平成18年4月 国立国際医療研究センター (現国立国際医療研究センター) 後期研修医
平成21年4月 同専門修練医
平成22年4月 現職

特別
報告

「HIV陽性者のための歯科の診療案内」 発刊について

厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策研究事業
「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」
「歯科の医療体制整備に関する研究」分担代表研究者

Yuji Usami
うさみ ゆうじ
宇佐美 雄司 先生

講演

2

院内感染対策と口腔ケア

院内感染対策はできていますか？

自信を持って「できています!」と答えられる方は少ないのではないかと思います。

米国にはCDC、欧州にはEN規格など明確なガイドラインがあり、それに基づいて感染対策が行われています。しかし、本邦においては厚生労働省委託事業「歯科保健医療情報収集等事業」から「一般歯科診療時の院内感染対策に関わる指針」は作成されていますが、明確な判断基準がないため、指針を参考に各診療所で院内感染対策を行なっているのが現状です。

- HIV感染症のことはよくわからないから、診療するのは不安がある。
- 先輩がこの洗浄剤を使っていたから、何も考えずに説明書も読まずにそのまま使っている。
- 洗浄剤や消毒液も使用しているしオートクレーブをかけるから、器材の洗浄はそんなに丁寧にやらなくても問題ない。
- オートクレーブにはクラス分けがあるみたいだけど、実際に今使っているオートクレーブは何クラスなのかかわからないし、何が違うのかもよくわからない。
- 歯科衛生士学校で習った感染対策を、情報をアップデートすることもせずにそのまま行っている。

以前の私は上記のような状態でした。

当院に勤務するまでは、医療者として当たり前の、「正しい知識を得て、それを実践する」ということを行っていなかったのです。

現在はその反省をふまえ、CDCのガイドラインを参考にシステムを構築し、感染対策を行っております。また、当科は年に4回、ACCと協力して歯科コースを開催しています。そこには全国から受講者がきてくださっています。時に、受講者の方々からの質問がヒントになることもあり、改良しながら感染対策を行なっています。

本講演では、当科での感染対策と実際に行なっている口腔ケアの症例写真などを供覧し、

- 外来での感染対策
 - 病棟での感染対策
 - 器具の洗浄、滅菌方法
 - HIV感染者の口腔ケア
- などについてお話しさせていただきます。

Junko Kondo

国立国際医療研究センター
歯科・口腔外科 歯科衛生士

こんどう じゅんこ
近藤 順子 先生



略歴

1991年 東京医科歯科大学歯学部附属歯科衛生士学校卒業
1991年 一般歯科診療所勤務
2004年 国立国際医療研究センター病院 非常勤職員として採用
2011年 同病院 定員内職員として採用
2019年 武蔵野大学人間科学部卒業 現在に至る